

# 第27回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成29年7月13日(木)



## 感想・意見など

- ・福祉用具の活用の際には家族だけでなくヘルパーや訪問看護師も使い方を把握する必要がある。
- ・家の中に入るために屋外の改修をする場合、介護保険や市町村の給付を活用する方法がある。
- ・制度によって商品があっても利用できないケースがある。
- ・自助具工房の活用。工房によって特色有。
- ・福祉用具は何のために使うのか、目的を明確にすることが必要。
- ・職種によって知らないことがたくさんあった。
- ・利用者の状況や思いについてはケアマネを通して聞いたり、福祉用具事業者が直接聞いたりすることもあるが、利用者が相談しやすい状況の人であったり、その時に関われる方がいろいろ聞き出し、皆で情報共有できると利用者のことがよく分かってくると思う。
- ・呼吸器疾患の方、在宅酸素を利用されている方の対応では、ケアマネとの連携が重要だと思った。（医療器具販売者）
- ・福祉用具は必要なものとの認識はあるが、用具の知識が十分でなくもどかしいと思うことがある。

- レンタルは本人の状況に合わせて変更できることが利点である。
- 入院中の方はリハビリ職から福祉用具を提案し、入院中に在宅訪問して調整、サービス担・当者会議にて決めていくが、会議が無いこともあり、現実の一部の職種で検討することが多い。
- 介護保険制度初期は用具の専門員がいなかったため苦労した。専門相談員ができてよかったと思う。(包括)
- 福祉用具の相談員は皆熱心で親切という印象。誤嚥性肺炎の予防に、姿勢を保持できる車椅子がよいと思った。(歯科医師)
- ケアマネと福祉用具だけでなく利用者の状態に応じ適切な専門職が関わることでより適切な用具の提供ができる。福祉用具相談員の提案力も大事だと思った。
- 退院のケースや介護保険を利用されている人はよいが、ずっと在宅で状態が低下している人への用具の提案はどうしたらいいか(専門職のかかわりがない場合)。一般住民に向けた用具利用の啓発も必要ではないか。
- 電動カートの使用は、活動的な性格で自分で外出したい人が使用されていたりする。介護度が軽度なうちにレンタルができればよいと思う。レンタルが出来ない場合、仕方なく中古を購入される場合もある。(ケアマネ)

- ・ 吸引器など日常生活自立支援の制度、障害によって、購入補助がある用具もある。自治体によって手順や条件に違いがある。
- ・ 福祉用具には多くの種類があると思った。歯科では歯ブラシにいろいろな種類がある。電動歯ブラシは歯科医院でも注文できる(歯科医師)
- ・ 車椅子の付属品として除圧マットがあるが、椅子用のものが保険対応ではなく、購入しようとするが高価。座りっぱなしの人で臀部に傷ができている人にクッションだけでも貸与して欲しいと思う(看護師)。
- ・ 新しい福祉用具として、高齢の方にもなじみやすいものがでてくるとよい(たとえば使いやすい和式便座など)
- ・ テーブルを支えに使うこともある。日常生活で使っているものを利用することも一つの方法。
- ・ ターミナル期の方で要介護1だと福祉用具を使いたくても使えないことも多い。すぐに区分変更申請をしても間に合わないことが多い。介護度に関係なく必要な用具が使えるとよいと思う(ケアマネ)
- ・ スロープは介護者の体型によっては事故につながる。中間手すり(平行棒、ベスポジ)は重宝している。(ケアマネ)

- ・ エアーマットの選定について誰の意見で決めるとよいか分からないことがある。病院で使用していたものをそのまま使うようにということと言われことがあるが、在宅で関わる訪問看護と意見が分かれる場合がある。そのような時、福祉用具事業者の方の専門的知識、見解がとても重要になる。(ケアマネ)
- ・ 「ブーメランクッション」は、レンタルできる地域とできない地域がある。市町によって認められていない場合がある。
- ・ 携帯酸素のカートは引っ張るタイプと押すタイプのものがある。タイプが違くとSP<sub>O</sub>2が変化することがある。
- ・ 事業所によって福祉用具の値段に違いがあることや、レンタルと住宅改修の費用など、費用面での話を専門職に聞くことができてよかった。
- ・ 退院時にリハビリ職の方が関わり、自宅訪問など行われ福祉用具を導入されたりしているが、実際退院して利用してみると思っていたように活用できなかつたりすることがある。
- ・ 福祉用具は必要なものとの認識はあるが詳しいところまでは分からない。
- ・ めがねや箸等も含めて、福祉用具は生活を豊かにするものが福祉用具だと考える。マイナスのものではないと思った。

- ・ 福祉用具は本人が自立するためにある。
- ・ 福祉用具を考える際、料金の問題も重要。レンタルにするのか購入にするのか。いづれにもメリット、デメリットがある。
- ・ 病院入院中に在宅で使えるような福祉用具の見本を多く見てもらえるようにすると良いと思う。
- ・ 住民への情報提供が必要。(福祉用具のことや住宅改修のことが知られていない)
- ・ 小さな福祉用具も大事。例えばボタンエイド、ハンドリーチャーなど。本人の満足感が得られる。
- ・ 福祉用具の対応が市町村によって違う。その違いも知る必要がある。
- ・ 介護度の変更(軽度に)によって活用できなくなる福祉用具があると本人の希望がかなえられないこともある。車椅子のままで歯科治療は可能。車椅子から診察台への移乗は困難である。訪問歯科は増える傾向にある。(歯科医師)
- ・ 階段が上がれないから歯科にいけないという人がいる。(包括)
- ・ 電動カートの導入時に利用者の操作方法のテストをしているのかどうか知りたい。(行政)

- ・ 障害者対象項目、保険対象外だが高額で購入しなくてもいい方法等を知る必要がある。(情報提供の必要性)
- ・ カンファレンスで福祉用具の必要性を伝えても実際使用してみないと、生活の中での良さが利用者や家族には伝わりにくい。
- ・ 福祉用具の最新情報を得るようにしないといけない。
- ・ 福祉用具導入時に専門職からの助言(訪問看護、リハ、ケアマネ、MSW)は重要。チームで連携し支援につなげるようにしたい。
- ・ 訪問リハで福祉用具を試しながら種類を選定している。
- ・ 「メガネは福祉用具」「箸も福祉用具」…目からウロコ。
- ・ 福祉用具は生活の質を上げるためのもの。活用をマイナスに考えるのではなくプラスに考えて活用を。福祉用具の活用がきっかけで生活が豊かに、広がりが出てくることもある。そのことを地域住民にも知ってもらいたい。



## ケアマネジャーはどのように福祉用具事業者に依頼をするのか

- ・ケアマネのアセスメントで品目の見立て
- ・事業所によって扱っている商品が違う(事業所の情報をつかんでおく)
- ・福祉用具が必要かなと思ったら、リハビリの専門職に相談して、その後福祉用具の事業所に相談
- ・福祉用具専門相談員に連絡を取って一緒に自宅訪問をして選定する。機種を選定には専門職の意見が重要。

## 福祉用具事業所は誰からどのように依頼を受けているか

- ・リハビリの先生やケアマネジャーからの相談が多い。
- ・利用者の情報を聞いて、とりあえずいったん試してもらったり、他にも必要なものがあれば提案をしていく。
- ・円背のある方に合った福祉用具の選定では、姿勢を見ながら評価をして車いすを選定している。

# 福祉用具活用事例

- ・ 視力障害の方にベッドに手すりを設置したことで方向が分かるようになり動きやすくなった。
- ・ 99歳の方が手すりを置いただけで起居動作ができるようになった。
- ・ 大腿骨骨折により介助用車椅子を選定したが、自宅では自分で動きたくて漕ぎ出されたため自走用に変更。行動範囲が広がった。
- ・ 理学療法士と福祉用具相談員の方で調整をしていただき食べる姿勢が良くなった（歯科衛生士）
- ・ 受診時に車椅子の方の治療台への移動が大変だったが、歩行器が役に立った（歯科医師）
- ・ 電動車いすの活用で畑までの移動が可能になった。